

Influence of topical application of capsaicin, menthol and local anesthetics on intraoral somatosensory sensitivity in healthy subjects - temporal and spatial aspects

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長縄, 拓哉 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31339

主論文の要旨

Influence of topical application of capsaicin, menthol and local anesthetics on intraoral somatosensory sensitivity in healthy subjects - temporal and spatial aspects

(カプサイシン, メンソールの局所塗布が歯肉の機械的および温度感覚に及ぼす影響)

東京女子医科大学歯科口腔外科学教室
(主任：安藤智博教授)
長縄 拓哉

Experimental Brain Research 2015;233(4):1189-99. に掲載

【要 旨】

本研究ではカプサイシン, メンソールおよび表面麻酔による口腔内の様々な感覚モデルに対し, 口腔用感覚検査機による刺激を行い, 口腔内 (歯肉) の時間的また位置的な感覚の変化を観察した.

各被験者個々の口腔内テンプレートは歯科用印象材を用いて作成した. 各薬剤をテンプレート内に塗布し, 痛み刺激の強度を電氣的 Visual Analog Scale (以下 VAS, 0-10) にて 15 分間測定した. 口腔用検査機器を用いた刺激は薬剤塗布前, 塗布後 5, 10, 15, 20, 30 分後にそれぞれ行った. 刺激により受容した感覚強度を Numerical Rating Scale (以下 NRS, 0-100) にて記録した.

カプサイシンはメンソールやコントロール群に比べ有意に高い VAS を認めた. カプサイシン群において, 薬剤塗布部位に対する熱刺激は隣接部位に比べ有意に高い NRS を認めた. また隣接部位においてもコントロール群に比べ, 熱刺激により有意に高い NRS を認めた. メンソール群においては, 各刺激に対し有意差は認めなかった. 表面麻酔塗布部位は隣接部位に比べ, 全刺激に対し有意に低い NRS を認めた.

カプサイシンの局所塗布は熱刺激に対する感覚を塗布部位 (Primary zone) および隣接部位 (Secondary zone) で上昇させた (Heat hyperalgesia).